

令和元年度病害虫発生予報第7号

長崎県病害虫防除所長

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
大豆	吸実性カメムシ類	並	並
ばれいしょ	アブラムシ類 ジャガイモガ ヨトウムシ類、オオタバコガ	少 やや少 少	やや少 並 やや少
いちご (本圃)	うどんこ病 炭疽病 (<i>G.cingulata</i>) アブラムシ類 ハダニ類 ハスモンヨトウ	並 やや多 やや少 並 やや少	並 やや多 並 やや多 並
ブロッコリー	コナガ ヨトウムシ類 オオタバコガ	やや少 やや少 並	並 並 やや多
レタス	ハスモンヨトウ オオタバコガ	少 少	やや少 やや少
かんきつ	緑かび病、青かび病 ミカンハダニ カメムシ類	並 少 並	並 少 並

【発生予報】 本文の () 内は平年値

大豆

1. 吸実性カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 10月前期の巡回調査(9筆)の結果、寄生株率は0.9%(1.0%)株当たり虫数は0.01頭(0.01頭)、発生圃場率11.1%(15.3%)であった。

イ 10月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、寄生株率は4.0%(43.3%)、株当たり虫数は0.04頭(0.82頭)であった。

ばれいしょ

1. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 10月前期の巡回調査(20筆)の結果、発生は認められなかった(寄生株率1.0%、発生圃場率16.5%)。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みで、本虫の発生に好適である。

2. ジャガイモガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 10月前期の巡回調査(20筆)の結果、被害株率は0.0%(0.9%)、発生圃場率は10.0%(11.9%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みで、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 土中のいもが産卵を受けないよう土寄せを十分に行う。

イ 圃場での発生に注意し、ヨトウムシ類と併せて薬剤散布する。

3. ヨトウムシ類(ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ)、オオタバコガ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 10月前期の巡回調査(20筆)の結果、ヨトウムシ類の被害株率は0.8%(1.9%)、発生圃場率は15.0%(27.5%)であった。

イ ハスモンヨトウのフェロモントラップ(諫早市)による誘殺数は、6月2半旬にピークが見られ、その後は平年より少なく推移している(図1)。

ウ シロイチモジヨトウのフェロモントラップ(諫早市)による誘殺数は、8月6半旬にピークが見られ、その後は平年より少なく推移している(図2)。

エ オオタバコガのフェロモントラップ(諫早市)による誘殺数は、4月6半旬および6月5半旬にピークが見られ、その後はおおむね平年より少なく推移している(図3)。

オ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みで、本虫の発生に好適である。

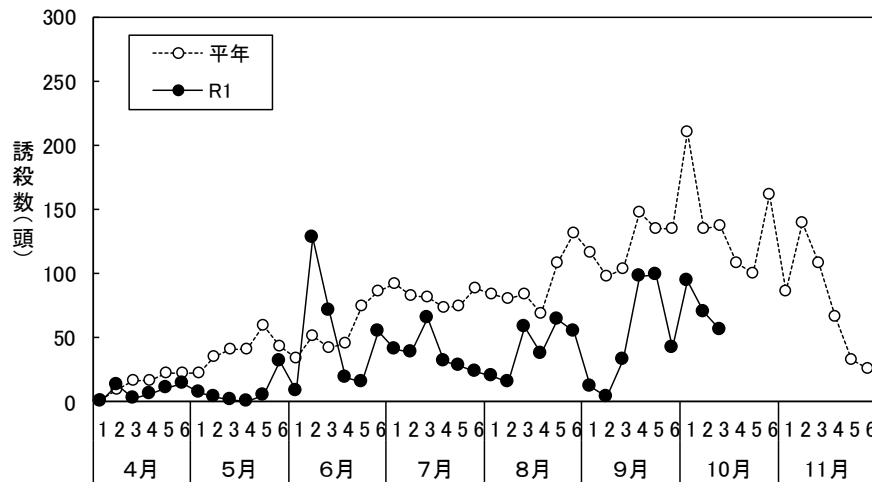


図1 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越) (月・半旬)
平年: H21~H30年の平均値(最大・最小値除く)

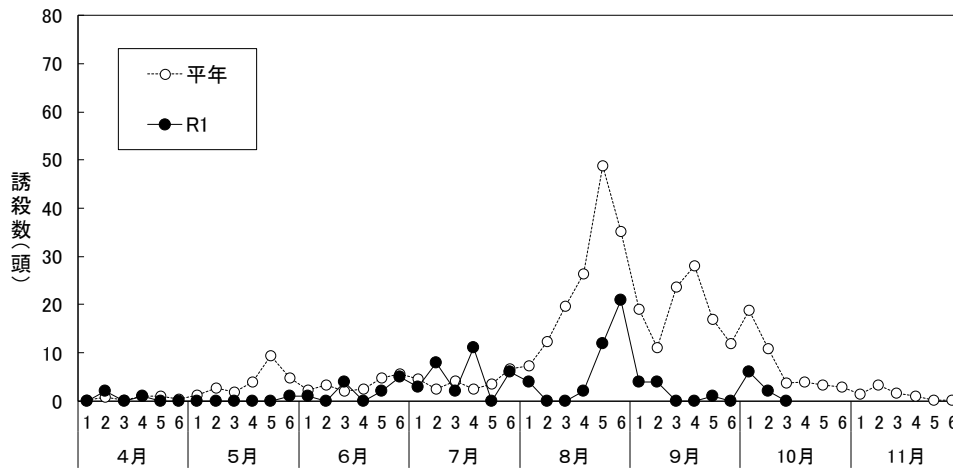


図2 シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越)

平年: H21~30の平均値(最大・最小値を除く)

(月・半旬)

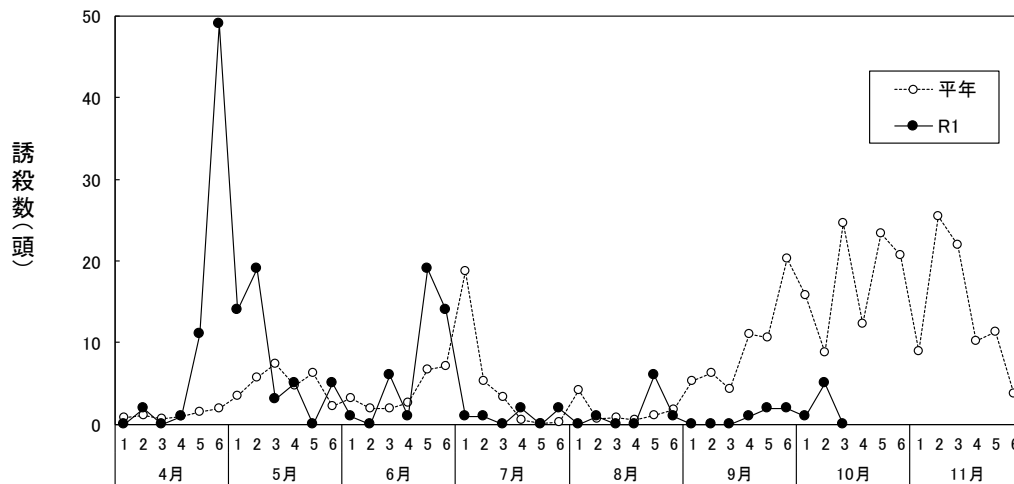


図3 オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越)

※H22より粘着板からファネルトラップに変更

平年: H21~30の平均値(最大・最小値を除く)

(月・半旬)

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月前期の巡回調査(26筆)の結果、発生を認めなかった(過去10か年平均発病株率0.0%、発生圃場率0.4%)。

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

10月前期の巡回調査(26筆)の結果、発病株率は0.3%(0.1%)、発生圃場率は11.5%(7.4%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発病及び枯死した株は、伝染源となるので見つけ次第速やかに圃場外に持ち出し、圃場周辺に放置しない。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 10月前期の巡回調査(26筆)の結果、寄生株率は0.4%(2.1%)、発生圃場率は15.4%(20.5%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みで、本虫の発生に好適である。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 10月前期の巡回調査(26筆)の結果、寄生株率は7.8%(3.1%)、発生圃場率は26.9%(23.2%)であり、一部で多発圃場が見られた。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みで、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 下葉の裏に多く寄生するので、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。

特に「ゆめのか」や「恋みのり」は茎葉が繁茂しやすく、農薬が葉裏まで十分かかりにくいいため注意する。

イ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。

ウ 天敵を利用する場合、天敵に影響が少ない薬剤で密度を下げてから使用する。

エ 開花後はミツバチ影響日数により散布時期が制限されるので、ミツバチ導入前までにハダニ防除を徹底する。

5. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 10月前期の巡回調査(26筆)の結果、食害株率は5.3%(7.2%)、発生圃場率は57.7%(61.4%)であった。

イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺数は、6月2半旬にピークが見られ、その後は平年より少なく推移している(ばれいしょの項参照)。

ウ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みで、本虫の発生に好適である。

ブロッコリー

1. コナガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 10月前期の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は1.7%(3.1%)、株当たり虫数は0.0頭(0.1頭)、発生圃場率は25.0%(30.6%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みで、本虫の発生に好適である。

2. ヨトウムシ類(ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 10月前期の巡回調査(12筆)の結果、ハスモンヨトウの寄生株率は5.0%(2.4%)、発生圃場率は41.7%(29.2%)であった。シロイチモジヨトウの

寄生株率は0.3% (2.7%)、発生圃場率は8.3% (24.7%)であった(平成27年度まではその他ヨトウムシ類で調査)。

イ ハスモンヨトウのフェロモントラップ(諫早市)による誘殺数は、6月2半旬にピークが見られ、その後は平年より少なく推移している(ばれいしょの項参照)。

ウ シロイチモジヨトウのフェロモントラップ(諫早市)による誘殺数は、8月6半旬にピークが見られ、その後は平年より少なく推移している(ばれいしょの項参照)。

エ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みで、本虫の発生に好適である。

3. オオタバコガ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 10月前期の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は1.0% (0.1%)、発生圃場率は16.7% (2.1%)であった。

イ オオタバコガのフェロモントラップ(諫早市)による誘殺数は、4月6半旬および6月5半旬にピークが見られ、その後はおおむね平年より少なく推移している(ばれいしょの項参照)。

ウ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みで、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 幼虫は花蕾部に侵入すると薬剤がかかりにくくなり、防除効果が低下するので、早期発見、早期防除に努める。

イ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。

レタス

1. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 10月前期の巡回調査(9筆)の結果、発生を認めなかった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みで、本虫の発生に好適である。

2. オオタバコガ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 10月前期の巡回調査(9筆)の結果、発生を認めなかった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みで、本虫の発生に好適である。

かんきつ

1. 緑かび病、青かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月前期の巡回調査(36筆)の結果、発病果率は0.0% (0.0%)、発生圃場率は2.8% (1.4%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 孢子が形成された摘果果実や樹上の発病果は見つけ次第、取り除き処分する。
- イ 雨の日や雨の翌日に果実に水滴が残っているときは収穫を行わない。また、果実に傷を付けないように収穫、運搬、選果を丁寧にする。

2. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

- ア 10月前期の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は0.1%(4.2%)、発生圃場率は8.3%(34.8%)であった。

3. カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- フェロモントラップの誘殺数は、諫早市多良見町、西海市西彼町で10月1半旬以降増加している(図)。

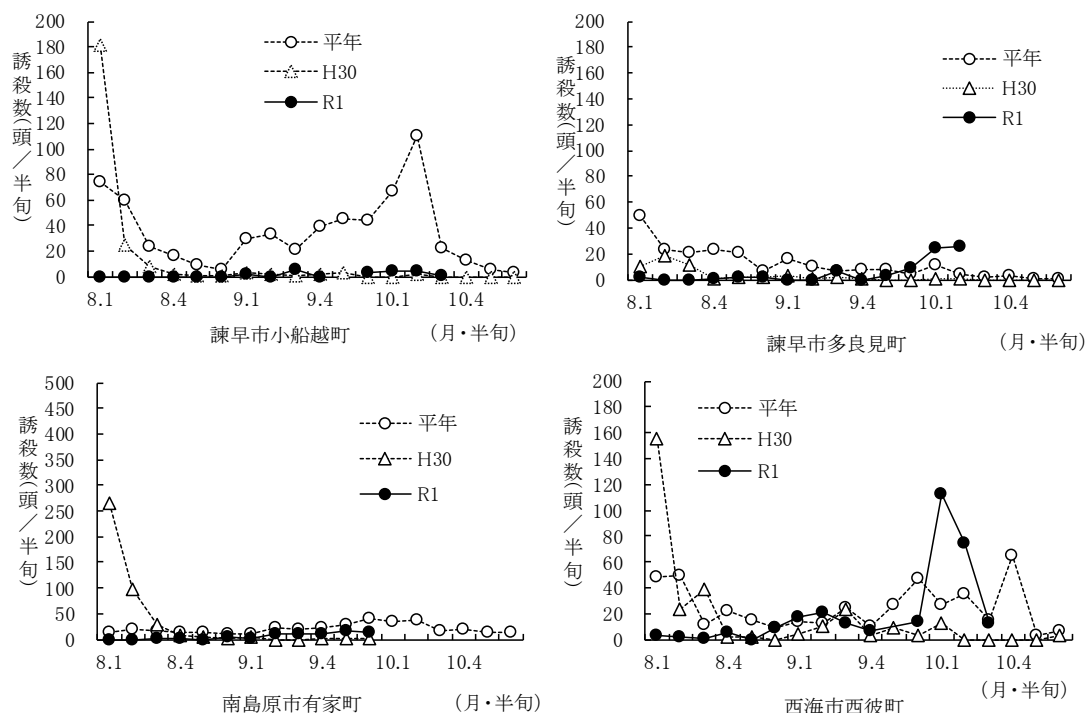


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(黄色コガネコール)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア カメムシ類は園によって集中加害するおそれがあり、また、山林に近い園ほど飛来が多くなる傾向にあるので、果樹園の見回りを徹底するとともに、飛来や被害果を認めたら早急に防除を行う。
- イ 果樹カメムシ類は主に夕方から夜間に飛来して果実を加害する傾向があるため、薬剤散布は夕方に行う。また、薬剤散布に当たっては使用時期、使用回数等を確認し、使用基準を遵守する。

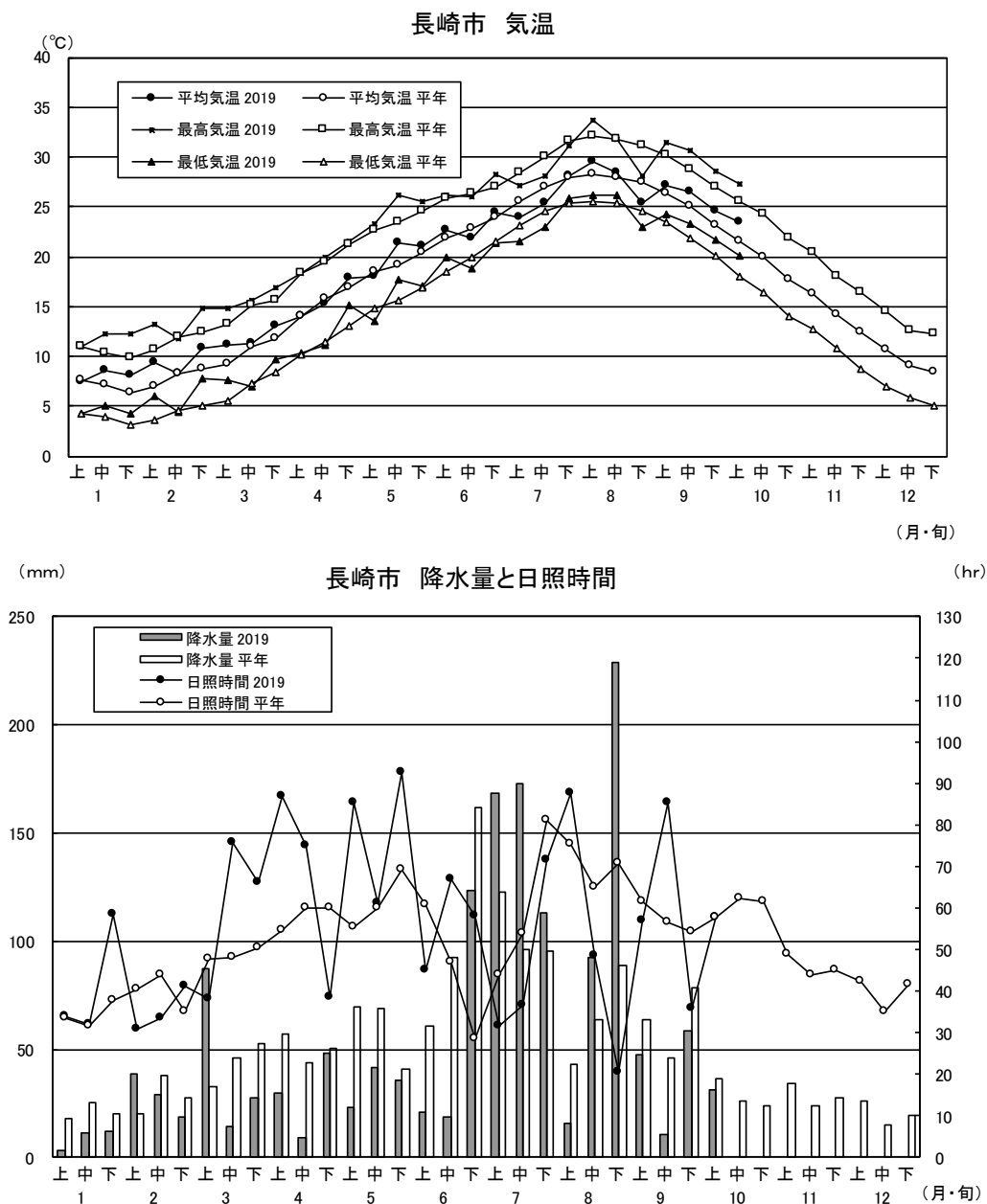
【参考】

(令和元年10月10日発表 1か月予報 福岡管区气象台)
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	20	70
降水量	30	40	30
日照時間	30	30	40

※予報対象地域：九州北部地域

令和元年の気象経過 (長崎地方气象台)



○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnpn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

